

因島高校を支援する会

発行 会 校 支 援 会
因 島 高 校
支 援 会
会 長 竹 中 啓 修
会 員 竹 中 啓 修
題 字 竹 中 啓 修

特集 村上和弘因島市長に聞く

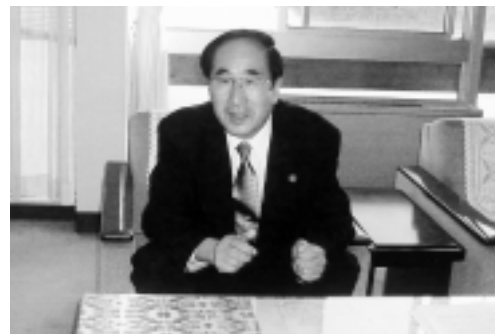
「インタビュー」 因島高校PTA会長 村上 正則
因島市PTA連合会長 村上 宏

八月十三日(月)、市長を訪問し、因島高校に期待すること、市内小中学校教育に対する思い、また、因島の将来をなう若い人たちに對する市長の思いについて、お聞きしました。(インタビューは、因島高校PTAの村上正則会長と、因島市PTA連合会長の村上宏会長が勤めました。両名とも因島高校を支援する会の副会長です。)

村上高P はじめに市長さんには、因島高校を支援する会の顧問に就任していただき、因島高校の再生に向けて、ご支援ご協力いただきありがとうございます。特に、全市民あげて因島高校を応援していただくためには、いろいろな活動

因島高校に期待することについて

村上高P 因島高校に期待することについて聞かせてください。
市長 まもなく県内でも有数の立派な校舎が完成いたします。その恵まれた教育環境をどう生かすかですが、三つのポイントがあると思います。まず一番に、「高校生の努力」、そして二番目に、「教育にかける先生方の意識、熱意、技術力」、つまりプロとしての教育力、そして三番目に、「地域の支援」だと思えます。因島高校は、今までは素晴らしい人材を送り出してきました。これからは教育の原点に立ち返り、子どもの潜在能力をのばし、子どもが安心して入学できることが大切です。



や取り組みを市民にPRし、広く協力を仰ぐことが大切ですが、そういうことからこの「支援する会」の会報を、市および因島市区長連合会の協力により、市広報とともに全戸配布していただいています。ことに、感謝いたします。

市長 先生の言葉というのは大切で、私が高校三年のとき、先生に「勉強しななくちゃいけないぞ。結果でなく、努力する過程が大切なんだ。今勉強しておけば、後々の自分の人間形成に役立つのだ。未来も開けてくる。」と言われまして。それで、とにかくやってみようと思えました。

村上高P 子どもの目的意識をどうもたせるかが重要だと

村上高P 子どもの目的意識をどうもたせるかが重要だと

入会のご案内

みなさんのご支援ご協力をよろしく申し上げます。入会及び入会金の受付は下記へご連絡下さい。

因島高校PTA事務局
重井校舎(赤畑教頭)
☎ 08452-4-1281
土生校舎(藤本教頭)
☎ 08452-2-2133

前の問題だと思えます。高校生もアルバイト先では、大きな声で「いらっしやいませ。」「ありがとございませ。」と立派な対応をしている。東京のある学校ではコンピュータでアルバイトしてもらったほうが教育になるとか、言ってるそうです。

村上高P 先生方も、学校や教育現場だけでなく、民間で研修するようになりましたね。これは見聞を広めたり、民間の意識が入ってきてきつとプラスになると期待しているのですが。

本市の小中学校教育について

村上高P 本市の小中学校教育の現状についてどう思われますか。
市長 最近の入学式・卒業式ですが、国旗国歌は励行されるようになりましたが、国歌斉唱のときは、校長、教頭は歌っているが、他の先生方は口をつぐんでいる。それが次に校歌斉唱となると、先生が大きな口をあけて力いっぱい歌っている。これは不自然ではないかと思えます。子どもたちがこういふ姿を見て、どう思つかうか。

村上高P 以前の起立せずに着席したままでしたから、着実に改善が図れているようにですが、オリンピックで国旗掲揚のとき帽子をかぶったままの日本選手がいて、諸外国から非難の声もありました。学校で子どもとき国旗国歌を粗末にする教育を受けていれば、当然がもしれませんか。

市長 日の丸、君が代、日本の道徳、倫理観を否定するよくな教育は間違っていると思えます。長い歴史の中で培ってきた日本のいいところを否

将来の因島に対する市長の思い

村上高P 将来の因島を担う若者へ因島の未来について市長の思いを聞かせてください。
市長 因島技術センターをもっと拡大充実させたいと思っています。

因島市は、長い間の造船技術が蓄積されていますし、人材も豊富です。これらを因島市の発展にどう結び付けるかが重要で、今年度中に重井町に商工業

村上高P 今までは先生方が、自分または特定の組織や団体の思想信条を教育現場に持ち込んでいた傾向があった。しかし、これからは中立と公開の原則に立つて法律や指導要領を遵守していくべきです。

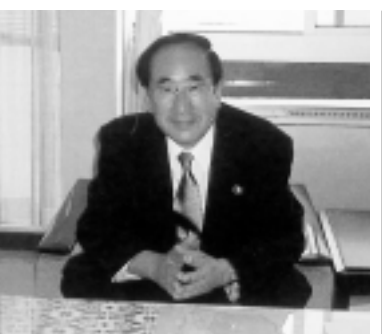
村上高P 戦前の教育には、問題点もあったでしょうが、戦後こういったものがあるそかにされてきたことが問題と思えます。

村上高P 子どもも小さいころは、先生のいうことが正しいと思っ聞いていた。が、高校生のころになると、先生の教えは間違っていたんじゃないかと気づく子もいる。そして先生の言うことを信頼し

村上高P 学校のほうにお願ひしまして、小学生、中学生の学力テストをしてもらいたいですが、因島は教育の面で進んでいるのか、遅れているのか、市内小中学校のそれぞれが、わかっていることはオープンにしてほしいですね。

村上高P 学校のほうにお願ひしまして、小学生、中学生の学力テストをもらいたいですが、因島は教育の面で進んでいるのか、遅れているのか、市内小中学校のそれぞれが、わかっていることはオープンにしてほしいですね。

村上高P 学校のほうにお願ひしまして、小学生、中学生の学力テストをもらいたいですが、因島は教育の面で進んでいるのか、遅れているのか、市内小中学校のそれぞれが、わかっていることはオープンにしてほしいですね。



小中学校の統合について

村上高P なぜ今小中学校の統合が必要なのか聞かせてください。
市長 子どもたちも一定規模の中で、すなわち競争原理が働く中で、教育していかなくてはならないと思っっています。

村上高P 今日日はありがとございませ。市長さんからいろいろなお話が伺えて、私たち保護者として頼もしく感じました。これからも、私たち因島市民のために活躍をお願いいたします。

村上高P 今日日はありがとございませ。市長さんからいろいろなお話が伺えて、私たち保護者として頼もしく感じました。これからも、私たち因島市民のために活躍をお願いいたします。

れば、若い人たちにいい文化が伝えていけるし、目上の人を敬うということが身につけていくでしょうね。

市長 ほかの地域と比べても因島は四季を通じて大変良いところだと思えます。

交通アクセスについても、しまなみ海道あり、山陽道あり、将来は四国から山陰まで高速道もできる。瀬戸内海という海路もある。将来は交通の要になりますよ。

島には、島の文化があると思っっています。これは、近隣の町村長の考えも同じだと思えます。自分の郷土に誇りをもてば、帰属意識を十分感じてきます。そして、因島で誇れるものがあるか、何が作れるか。考えていかねばならないでしょうね。

自分の生まれ育ったふるさとを愛する心を持つてほしいと思っっています。

夏休み補習授業・勉強合宿

サテライン講座はじまる

補習授業

来春の進路決定を控えた三年生は、夏休暇前半後半の補習授業、「サテライン講座」、また二泊三日の勉強合宿と充実した夏となりました。

一学期から続く補習授業は、実践的な問題をこなす時期に入り、全員真剣なまなざしを取り組みました。担当の先生は「生徒は四苦八苦ながらもセンター試験や有名大学の入試問題が解けたりして、何ヶ月か続けてきた生徒には少しづつ力がついてきた」と話していました。

サテライン講座

「代々木ゼミナールサテライン講座」(衛星放送)は春休みに引き続き、夏休みも実施され、英語・数学・国語の三教科とも三〇名を越す生徒が受講しました。「難関校の

入試問題も代々木ゼミ講師があつさり正解に導き、しかも笑いを織り交ぜ九〇分を飽きさせないようになっており、我々先生も勉強させられた」と教科担任の先生の弁士徒にも好評。



▲サテライン(衛星放送)講座

勉強合宿

三年生は、盆明けの八月十六日より福山の研修所にて二泊三日の日程で、一日一〇時間勉強の合宿をすこしまし



▲勉強合宿の様子

同窓会より10万円寄付

因島高校同窓会が、八月十四日、芸予文化情報センターにて、盛大に行われました。

竹中同窓会会長(支援する会会長を兼任)から、「会員の皆様からの協力により、因島高校も魅力ある高校に向けて

りあつ中で意欲がもてるという事です。つまり、将来に向けて夢や希望を持ち、意欲的に活動する子ども達の姿を実現して行くことが重要だと考えています。

因島高校PTAでは、村上会長始め四名の役員が、三年生の勉強合宿先を激励に訪れ、生徒の生の声を聞きまし

「今まで勉強の癖がついてなかったが、勉強する雰囲気になった。」周りの人を見るに刺激になる。」自然の中で

村上会長は、「サテラインは、生徒にも好評で今後も期待したい。また、学習習慣を早くから身につけさせるために、二年の勉強合宿についても先生に相談申し入れた

最近若い人たちの公共マナーの悪さが目につきます。例えば、道路に平気でゴミを捨てる、公共のものを大切にしない、交通ルールを守らない

先日高校に行つてびっくりしました。パソコン教室、視聴覚教室、介護実習教室、理科実験室、防音音楽室、書道専門教室等々、素晴らしい設備が充実です。高校生だけに

因島高校を支援する会のために

因島市立土生小学校校長

村田 積徳

因島高校を支援する会の役員会等に出席させていただき話し合いを進めていく中で、因島高校を支援するために小学校教育で何をすべきかを

育てば、根気強さ、集中力、身についてきますから、当然学力もついてきます。だから子ども達を生き生きとした活気のある意欲的な姿に変えていくことが大切です。

さらに意欲を育てるためには、子ども達が将来の夢や希望について語れるようにしておくはいいですね。

人は夢や希望があるからチャレンジする

夢や希望が人間をつくる

夢や希望がその人の人生をつくる

私の好きなこれら三つの言葉にあるように、夢や希望を語

組むを全校で一体的に進め、一年後にまた学力診断テストを実施することにしていま

学力向上のためにどうすればよいかを一点にまとめてみました。

まず第一は、子ども達の気持ち

間関係づくりを大切にしたい

意欲を育てることです。

意欲が

意欲が

意欲が

意欲が

地域の人も気軽に参観回開かれる

六月三十日(土)土生校舎重井校舎にて参観日が行われました。保護者に加えて、支援する会、教育委員会、区長

等から参観者がありました。参観後、懇談会があり、設備がすばらしい、授業態

度をもっと厳しく指導したらどうか、授業参観後生徒に礼を言われ、感心した、通学時自転車の信号無視が多く

気運が更に盛り上がりつつあるのではないだろうか。



(一)市民より

卒業生 合格体験記

因島高校では、毎年卒業する時、高校在学中の勉強の仕方、受験勉強のこと等々、「合格体験記」を書いて後輩の勉強の参考資料にしています。ここに一人紹介させていただきます。PTAでは、全員の分を文書にして生徒に配布し、勉強の役にたかせたいと企画中であります。

神戸商船大学 藤原 俊介

みんなは、いつの頃から志望校を選定していくだろうか。たぶんおおかたの人は、三年生になってからだと思う。早くても二年生の終わり頃ではないだろうか。僕はというと、志望校の選定は中学二年からしていた。早すぎるのでは、と思うだろう。今考えると確かに早かったと思う。しかし、早かったからこそ、その志望校の入試対策が充分とれたのではないが。高校一年の時からすでにその大学の学生募集要項を取り寄せていたため、入試科目、入試

志望者の変動、試験の難易度などを知ることができ、どんな教材を選んで、何を勉強すればいいのかわかっていった。それだけの情報が手に入るだけでも自分にとっては、大きなプラスになったのではないだろうか。

最後に、くだいようだが、推薦で受験するにしても一般で受験するにしても、早い時期に進路は決めておくべきである。それが難しかったら、自分が将来何の職業につきたいかを考えればよい。もしその職業が決まれば、進学先などが容易に見えてくる。そして何よりも、昔からの夢だったという思いがもしあれば、いつか自分が面接を受けるときに、それは大きな武器になるのは間違いないだろう。(平成十三年三月卒業)

市民の投書箱

最近若い人たちの公共マナーの悪さが目につきます。例えば、道路に平気でゴミを捨てる、公共のものを大切にしない、交通ルールを守らない等々数えればキリがないくらいです。これは家庭教育の問題だと思いますが、集団生活の中のルールは、家庭ではなかなか教えられない面も有ります。道徳教育の授業などで学校の中でもしっかりと教育できないものでしょうか。

先日高校に行つてびっくりしました。パソコン教室、視聴覚教室、介護実習教室、理科実験室、防音音楽室、書道専門教室等々、素晴らしい設備が充実です。高校生だけに使わせるのはもったいない。今、生涯教育が叫ばれていますが、これらを使って高校の先生方が、われわれにも教えて下されば、どんなにすばらしいでしょう。そうすれば、高校、先生と地元がより溶け合い、高校を支援しようという気運が更に盛り上がりつつあるのではないだろうか。

(一)市民より